

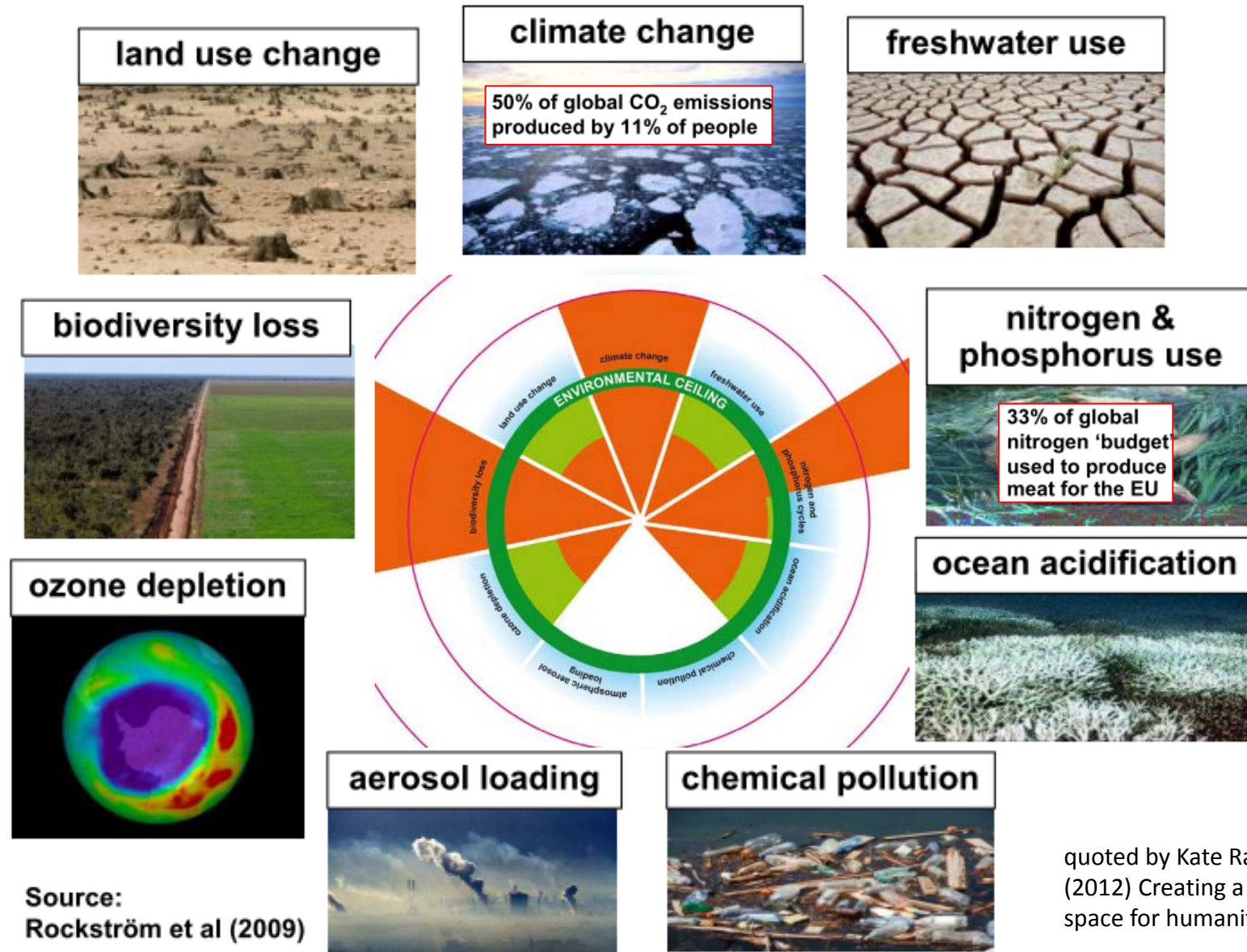
資料

Rio+20からのSDGs議論の整理

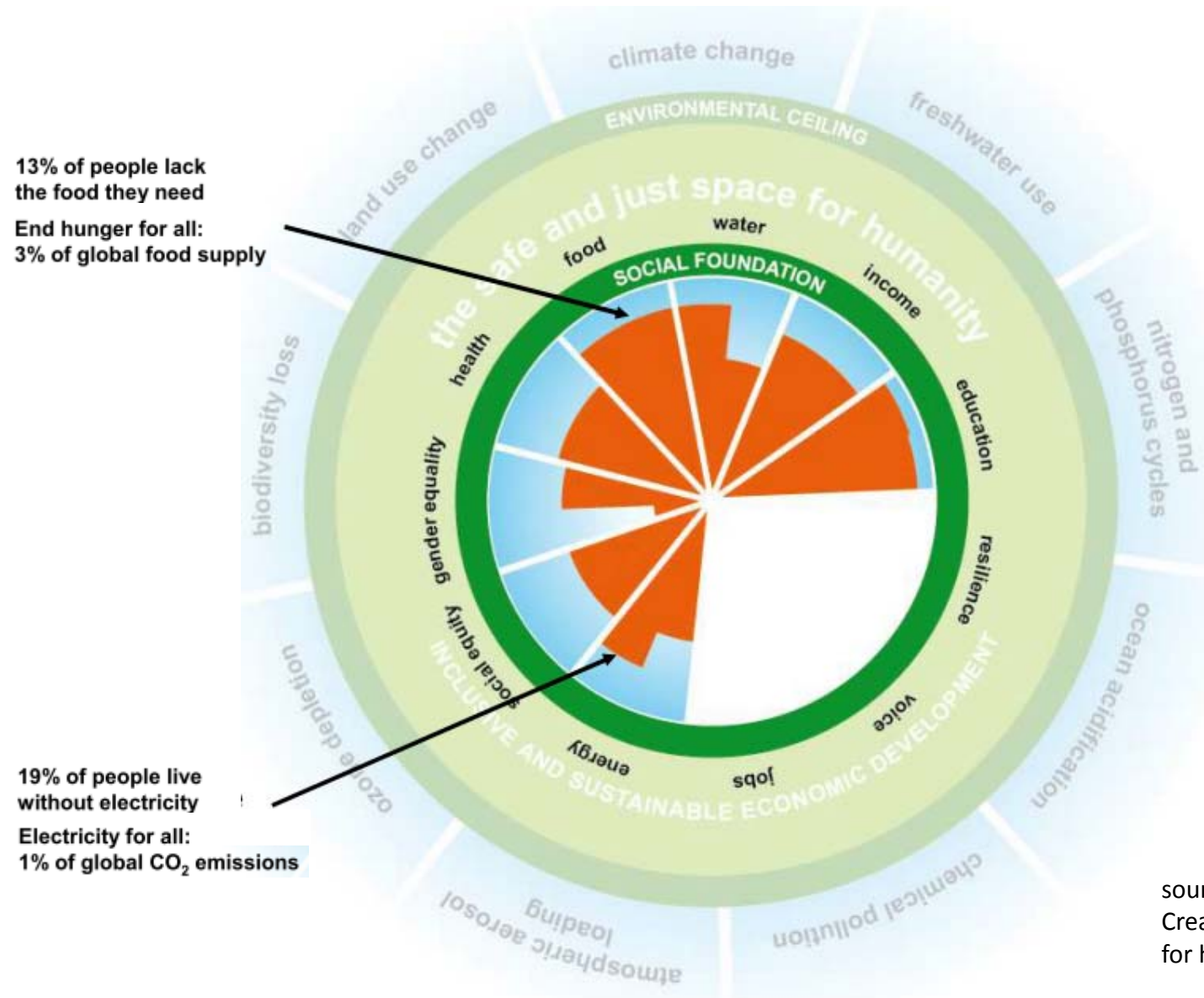
2013年10月5日

グリーンエコノミーフォーラム／
「環境・持続社会」研究センター(JACSES)
小野田真二

何故、SDGsが求められるのか？

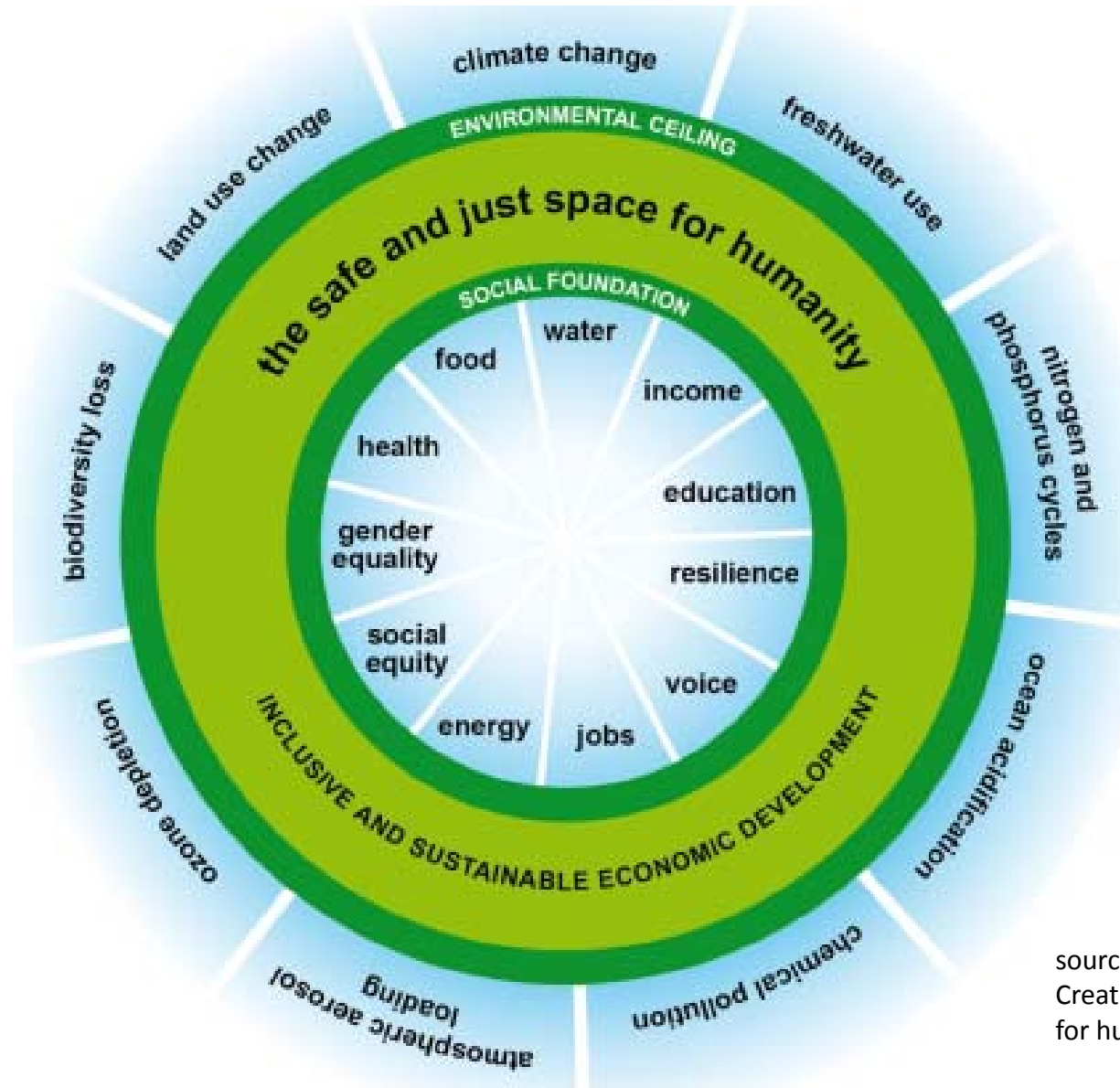


何故、SDGsが求められるのか？



source: Kate Raworth (2012)
Creating a safe and just space
for humanity (一部加工)

何故、SDGsが求められるのか？



source: Kate Raworth (2012)
Creating a safe and just space
for humanity

1. SDGsの議論の経緯

ーリオ＋20での議論と決定のポイント

リオ＋20に至る主な国際的経緯

年	出来事
1972年	国連人間環境会議：人間環境宣言の採択 国連環境計画（UNEP）設立
1987年	ブルントラント委員会「Our Common Future」発表
1992年	環境と開発のための国連会議（地球サミット）：リオ宣言・アジェンダ21・ 森林原則声明の採択、気候変動条約・生物多様性条約の署名開始
1993年	持続可能な開発委員会（CSD）設置
1997年	京都議定書の採択（2005年発効）
2000年	国連ミレニアム・サミット：国連ミレニアム宣言の採択
2001年	ミレニアム開発目標の策定
2002年	ヨハネスブルグ・サミット：ヨハネスブルグ宣言・持続可能な開発に 関する世界首脳会議実施計画（JPOI）の採択
2010年	愛知ターゲット・名古屋議定書の採択（未発効）
2012年	国連持続可能な開発会議（リオ＋20）：「The Future We Want」の採択

リオ＋20の開催経緯・目的・ テーマ・目指された成果

- 開催経緯
 - － 2007年9月の第62回国連総会でブラジル政府が提案、2009年12月の第64回国連総会で正式決定
- 目的
 - － 持続可能な開発に関する新たな政治的コミットメントを確保すること
 - － 持続可能な開発に関する主要なサミットの成果の実施における現在までの進展及び残されたギャップを評価すること
 - － 新しい又は出現しつつある課題に対応すること
- テーマ
 - － 持続可能な開発及び貧困撲滅の文脈におけるグリーン経済
 - － 持続可能な開発のための制度的枠組み
- 目指された成果
 - － 「焦点を絞った政治的文書」の策定



RIO+20
United Nations
Conference on
Sustainable
Development

リオ＋20の交渉スケジュール

年月日	出来事
2010年5月17-19日	第1回準備委員会
2011年1月10-11日	第1回非公式会合
3月 7-8日	第2回準備委員会
6-7月	サブ地域(sub-regional)準備委員会(カリブ海諸国、大西洋・インド洋・地中海・南シナ海島嶼国、太平洋島嶼国)
9-12月	地域(regional)準備会合(ラテンアメリカ・カリブ海諸国、アラブ地域、アジア・太平洋地域、アフリカ地域、欧州地域)
11月 1日	成果文書ゼロドラフト作成に向けたインプット提出締切
12月15-16日	第2回非公式会合
2012年1月10日	成果文書ゼロドラフト発表
1月25-27日	ゼロドラフト検討会合
3月19-27日	第1回成果文書交渉会合、第3回非公式会合
4月23日-5月4日	第2回成果文書交渉会合
5月29日-6月2日	第3回成果文書交渉会合
6月13-19日	第3回準備委員会、ホスト国による非公式協議
6月20-22日	リオ＋20本会合

↑
実質的な
交渉期間
↓

SDGs提案の出現、当初の反応

- SDGsは、ラテンアメリカ・カリブ海諸国の地域準備会合で、コロンビアとグアテマラにより初めて提案
 - SDGsはMDGsと完全に補完的で全ての国に適用
 - リオ＋20では、時間的制約から対象分野の設定と検討プロセスの合意を成果として期待
 - 検討プロセスは、MDGsのレビュープロセスと協調的／統合的に行うことを推奨
- ゼロドラフト作成のインプット段階における各国の反応・立場（一例）
 - ラテンアメリカ諸国はおおむね支持
 - 適切に構造化されれば有効な手段になりうる（アメリカ）
 - グリーン経済ロードマップをより重視（EU・スイス・韓国など）
 - 定量的目標に反対で、先進国が先にコミット（インド）
 - いずれポストMDGsに収斂させる必要（日本）

（参考：IGES（2012）「リオ＋20に向けた主要国・機関のポジションの整理」）

→ 結果的に見ると、ゼロドラフトで大よその位置づけが確定

リオ＋20でのSDGsに関する 主な決定内容

- 「アジェンダ21」及び「ヨハネスブルグ実施計画」を基本
- 「リオ原則」を全面的に尊重
- 持続可能な開発の達成に向けた優先分野を取り上げ、それらに焦点を当てるべき
- 持続可能な開発の3つの側面全てとそれらのインターリンクエージを、バランスの取れた形で取り上げ、組み入れるべき
- 2015年以降の国連開発アジェンダと整合的であると同時に同アジェンダへ統合されるべき
- ミレニアム開発目標の達成から、焦点または努力が逸脱することがあってはならない
- 関連する全てのステークホルダーを積極的に関与させる
- 行動志向、簡潔、限られた数、向上心があり、グローバルな性質
- 様々な国ごとの現実、能力及び開発レベルを考慮に入れ、国ごとの政策や優先事項を尊重しつつ、普遍的に適用可能なものであるべき
- 目標達成への進捗について、ターゲットと指標を設ける必要

リオ＋20でのSDGsに関する 主な決定内容

- 全てのステークホルダーへ開かれたSDGsに関する包括的且つ透明な政府間交渉プロセスを立ち上げ
- オープンな作業部会(OWG)を、第67回国連総会の開始(2012年9月)までに発足
 - 5つの地域グループからの30名の専門家で構成
 - 市民社会・科学界・国連システムからのステークホルダー及び専門家が、作業へ全面的に関与することを確保すべく、作業方法を決定
 - 第68回国連総会の会合へ、SDGsの提案を盛り込んだ報告書を提出
- SDGsの政府間交渉プロセスは、2015年以降の開発アジェンダの検討プロセスと整合的である必要
- このプロセスと作業部会の作業へ技術支援を提供するため、国連事務総長に対し、作業に必要な全てのインプット及び支援が、必要に応じた機関間の技術支援チームや専門家委員会の設立を通じたものも含め、国連システムから提供されることを確保するよう要請
- 作業の進捗に関する報告書は定期的に、国連総会向けに作成

SDGsとの関連で注目すべき リオ＋20での決定内容

- 資金に関する政府間交渉プロセスの立ち上げ
 - SDGs達成における資源動員・それらの効果的利用を推進するための「持続可能なファイナシング戦略」に関する選択肢を提案
 - 地域グループにより指名された30名の専門家からなる政府間委員会がこのプロセスを実施し、作業は2014年までに完了予定
 - 国連総会に対し、この報告書を検討し、適切な行動を取るよう要請
- 技術に関するファシリテーション・メカニズム
 - 関連する国連機関に、途上国の技術ニーズ評価による開発・移転・普及を促すファシリテーション・メカニズムの選択肢などを特定するよう要請
 - 国連事務総長に、選択肢に基づき、また既存のモデルを考慮に入れた上で、推進機構に関する勧告を、第67回国連総会に提出するよう要請
- 「持続可能な開発に関する委員会(CSD)」に代わる普遍的な政府間ハイレベル政治フォーラム(HLPF)を設立
 - 持続可能な開発のための政治的リーダーシップ、ガイダンス、提言を提供
 - 定期的な対話の場を設ける
 - 第68回国連総会の開始までに、第1回ハイレベルフォーラムを開催
 - これを目的として、ハイレベルフォーラムの形式・組織的事項を定義するため、包括的な交渉プロセスを開始。また、国連事務総長に報告書作成を要請

2. SDGsの議論の現状と今後

–ポスト2015開発アジェンダ策定に向けて

先行するポスト2015開発アジェンダ論議

- ミレニアム開発目標(MDGs)
 - 2015年までに国際社会が開発分野において達成すべき共通目標
 - 8つの目標と、その下に21のターゲットと60の指標で構成

目標と主なターゲット



目標1: 極度の貧困と飢餓の撲滅

- 1日1.25ドル未満で生活する人口の割合を半減させる
- 飢餓に苦しむ人口の割合を半減させる



目標2: 初等教育の完全普及の達成

- すべての子どもが男女の区別なく初等教育の全課程を修了できるようにする



目標3: ジェンダー平等推進と女性の地位向上

- すべての教育レベルにおける男女格差を解消する



目標4: 乳幼児死亡率の削減

- 5歳未満児の死亡率を3分の1に削減する



目標5: 妊産婦の健康の改善

- 妊産婦の死亡率を4分の1に削減する



目標6: HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延の防止

- HIV/エイズの蔓延を阻止し、その後減少させる



目標7: 環境の持続可能性確保

- 安全な飲料水と衛生施設を利用できない人口の割合を半減させる



目標8: 開発のためのグローバルなパートナーシップの推進

- 民間部門と協力し、情報・通信分野の新技术による利益が得られるようにする

*ロゴは「特定非営利活動法人 ほっとけない 世界のまずしさ」が作成したもの。

先行するポスト2015開発アジェンダ論議

- 2010年9月のMDGs国連首脳会合にて、事務総長に対し、ポスト2015年開発アジェンダ策定に向けた提言書提出を要請
 - ＜国連タスクチーム＞

2011年冬に立ち上げ。国連開発計画（UNDP）と国連経済社会局（DESA）主導の下、60の国連機関・国際組織が参加。2012年6月に報告書発表
 - ＜ハイレベルパネル＞

2012年7月、事務総長がポスト2015年開発アジェンダに関する諮問グループとして立ち上げ。2013年5月に報告書発表
 - ＜各種コンサルテーション＞

UNDP主導で、100以上の国別コンサルテーションや11のテーマ別コンサルテーションを世界各地で実施

 - － 日本としても、2011年にMDGsフォローアップ会合や、非公式に政策対話を行う場としてコンタクト・グループ立ち上げ等。後者は、約20か国の政府関係者、主要国際機関、研究機関、市民社会団体、民間セクターの大使・局長級の政策担当で構成。2012年9月に暫定議長ノート発表
- 2013年8月に国連事務総長報告「A life of dignity for all: accelerating progress towards the Millennium Development Goals and advancing the United Nations development agenda beyond 2015」（MDGsの進捗加速とポスト2015開発アジェンダの進展）が公表
- 2013年9月25日、国連総会にてMDGsとポスト2015開発アジェンダ特別イベント

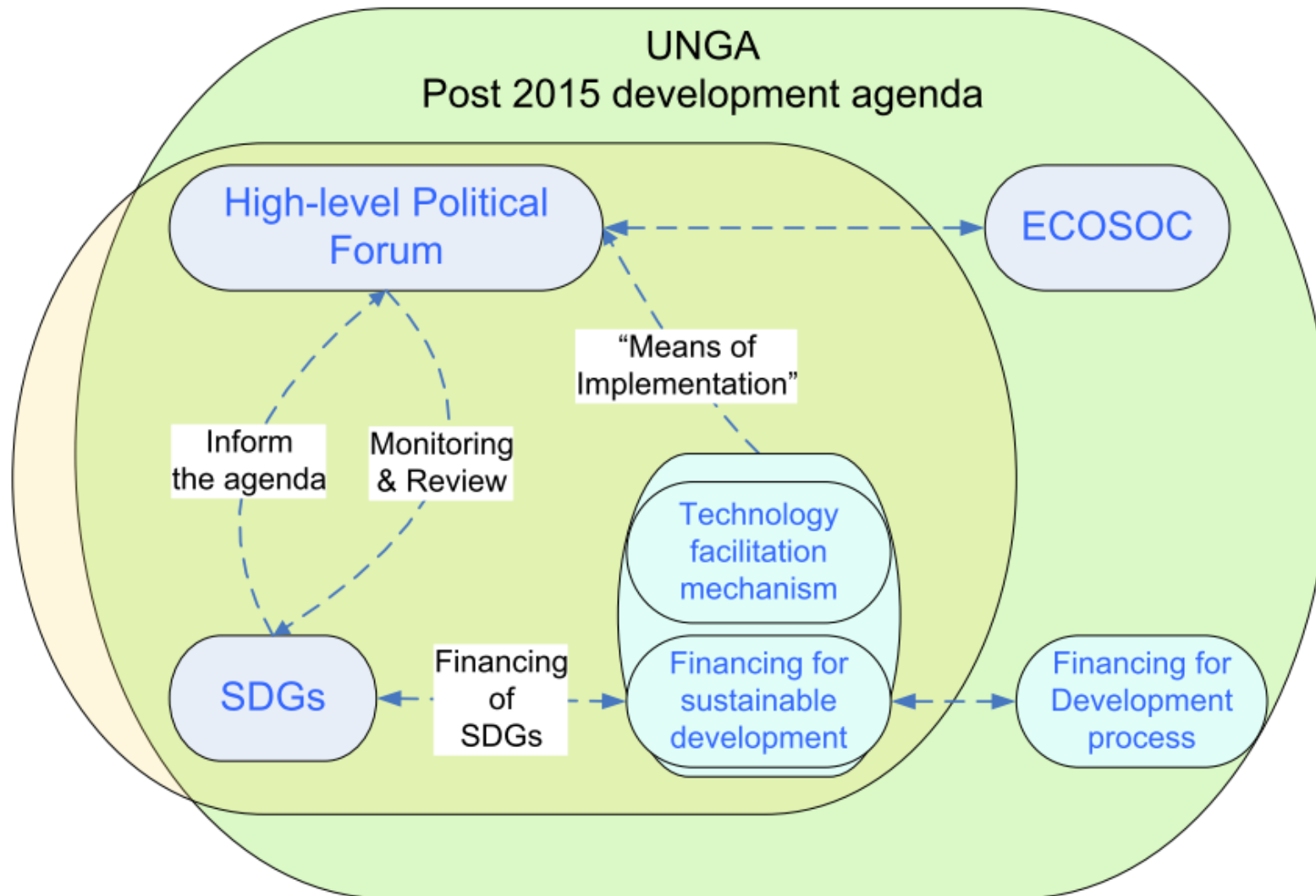
ハイレベルパネル報告書の概要

- 2030年までに極度の貧困を地球上から撲滅することを目指す
- 新たな開発アジェンダは、人間を中心に据えた、地球にも配慮した、普遍的枠組みであるべき
- 5大変革の必要性
 - ① 誰ひとりとして取り残さない
 - ② 持続可能な開発を中心に据える
 - ③ 雇用と包摂的成長のための経済変革
 - ④ 全ての人に対し、平和と効果的かつオープンで説明責任を有する制度を構築
 - ⑤ 新たなグローバル・パートナーシップの構築
- 変革ビジョンを行動に移すための目標体系案(12の目標と54のターゲット案)
 1. 貧困の撲滅
 2. 女兒と女性の能力強化とジェンダー平等の実現
 3. 質の高い教育と生涯学習の提供
 4. 健康な人生の実現
 5. 食料安全保障と良好な栄養状態の確保
 6. 水・衛生への普遍的なアクセスの達成
 7. 持続可能なエネルギーの確保
 8. 雇用、持続可能な生計及び衡平な成長の創出
 9. 天然・自然資源の持続可能な管理
 10. 良い統治と実効的な制度・機構の確保
 11. 安定的で平和的な社会の構築
 12. 開発に資するグローバルな環境整備と長期的資金の動員

国連事務総長報告の概要

- MDGsの進捗加速
 - 国家のオーナーシップと国際社会のコミットメントが必要
 - ODAの減少に懸念
- ポスト2015開発アジェンダ
 - 持続可能な開発を中核としつつ、貧困撲滅を最重要課題とすべき
 - 以下の革新的行動が必要
 - あらゆる形態の貧困の撲滅
 - 除外や不平等への対応
 - 女性と女児のエンパワーメント
 - 質の高い教育と生涯学習の提供
 - 保健衛生の改善
 - 気候変動への対応
 - 環境問題への対応
 - 包摂的で持続可能な成長と雇用の促進
 - 飢餓と栄養失調の撲滅
 - 人口問題への対応
 - 移民の積極的な貢献の強化
 - 都市化の課題への対応
 - 法の支配及び健全な機関に基づいた平和と効果的な統治の構築
 - 新たなグローバル・パートナーシップの促進
 - 国際開発協力の枠組みの強化

リオ+20フォローアッププロセスと ポスト2015開発アジェンダとの関係性



SDGs OWGの構成

African Group		Latin American and Caribbean Group	
1	アルジェリア/エジプト/モロッコ/チュニジア	1	コロンビア/グアテマラ
2	ガーナ	2	バハマ/バルバトス
3	ベナン	3	ガイアナ/ハイチ/トリニダード・トバゴ
4	ケニア	4	メキシコ/ペルー
5	タンザニア	5	ブラジル/ニカラグア
6	コンゴ	6	アルゼンチン/ボリビア/エクアドル
7	ザンビア/ジンバブエ	Western European and Others Group	
Asian Group		1	オーストラリア/オランダ/イギリス
1	ナウル/パラオ/パプアニューギニア	2	カナダ/イスラエル/アメリカ
2	ブータン/タイ/ベトナム	3	デンマーク/アイルランド/ノルウェー
3	インド/パキスタン/スリランカ	4	フランス/ドイツ/スイス
4	中国/カザフスタン/インドネシア	5	イタリア/スペイン/トルコ
5	キプロス/シンガポール/UAE	Eastern European Group	
6	バングラデシュ/韓国/サウジアラビア	1	ハンガリー
7	イラン/日本/ネパール	2	ベラルーシ/セルビア
・2013年1月に設置 ・ハンガリーとケニアの常駐代表が共同議長 ・第69回国連総会までに報告書		3	ブルガリア/クロアチア
		4	モンテネグロ/スロベニア
		5	ポーランド/ルーマニア

SDGs OWGのスケジュールと議題

- 1st session: 2013年3月14-15日
 - 役員の選出、議題の採択
 - 総括論議(2days)
- 2nd session: 2013年4月17-19日
 - SDG構想の形成(1.5days)
 - 貧困撲滅(1.5days)
- 3rd session: 2013年5月22-24日
 - 食料の安全と栄養供給、持続可能な農業、砂漠化、土地劣化、干ばつ(1.5days)
 - 水と衛生(1.5days)
- 4th session: 2013年6月17-19日
 - 全ての人の雇用とディーセントワーク、社会的保護、若者、教育と文化(1.5days)
 - 健康、人口動態(1.5days)

SDGs OWGのスケジュールと議題

- 5th session: 2013年11月25-27日
 - 持続可能で包摂的な経済成長、マクロ経済政策上の疑問(国際貿易、国際金融システム、対外債務の持続可能性確保を含む)、インフラ開発、産業化(1.5days)
 - エネルギー(1.5days)
- 6th session: 2013年12月9-13日
 - 実施手段(科学技術、知識共有と能力構築); SD達成のためのグローバルパートナーシップ(2days)
 - 特別な状況下にある国々、アフリカ諸国、後発開発途上国(LDCs)・内陸後発開発途上国(LLDCs)・小島嶼開発途上国(SIDs)のニーズ、および中所得国が直面する特別な課題(2days)
 - 人権、開発の権利、グローバルガバナンス(1day)
- 7th session: 2014年1月6-10日
 - 持続可能な都市と人間居住、持続可能な交通(2days)
 - 持続可能な消費と生産(化学物質と廃棄物を含む)(1.5days)
 - 気候変動と災害リスク軽減(1.5days)
- 8th session: 2014年2月3-7日
 - 海洋と海、森林、生物多様性(2days)
 - 社会的衡平性・ジェンダー平等・女性のエンパワメントを含む衡平性の促進(1.5days)
 - 紛争後の平和構築と恒久的平和の促進、法の支配とガバナンス(1.5days)

SDGs OWGの進捗レポート (A /67/941、7月に発表)の概要

- OWGによるSDGs提案では、ビジョンと記述的パート<narrative>の後に目標を提示することで広く合意
- 目標の下にターゲットと指標を設定。ターゲットは国ごとにより異なる必要
- 人権、人権に基づくアプローチ、ガバナンス、法の支配、意思決定へのより幅広い参加といった目標は数値化が難しいかもしれない
- 持続可能な消費と生産パターンは、先進国が率先しつつ、全ての国で確立されることが不可欠
- 多くの参加者が、SDGsに実施手段の規定を含む必要性を強調
- 数値化されたターゲットを持つこと、及び各国が進捗指標を支えるためのデータ収集と統計能力を確保することが重要
- 第2～4回会合の5テーマについての進捗を記載

SDGs OWGの進捗レポートの概要

一例として...

＜食料の安全と栄養供給、持続可能な農業、砂漠化、土地劣化、干ばつ＞

- － 安全かつ十分に栄養のある食料へのアクセス
- － 妊娠開始から2歳になるまで(重要な1000日)の間の適切な栄養
- － 非健康的なダイエットと生活習慣病の発生率拡大のリンク
- － 貧困は農村地域に広がったままで、その多くが小規模農家・農地非所有労働者とその家族
- － 小規模農家の生産性と農村地域の収入向上が必要
- － 農業研究と農村地域のインフラに多くの投資が必要
- － 小規模農業者による国・地域・国際レベルの市場にアクセスが不可欠
- － 健全で、生産性が高く、持続可能な漁業が食料安全保障と生計に不可欠
- － 食料損失の多い収穫後処理・保存・市場への輸送を含む、途上国における農業のバリューチェーン強化が必要
- － バリューチェーンの卸売および最終消費者の所での食料廃棄物も大きな課題
- － 持続可能な農業の実践がより重要な役割を果たす必要
- － 伝統的農家の知識の重要性
- － 土地劣化の防止・回復の重要性

SD資金に関する政府間の 専門家委員会

- 2013年7月に設立
- 特にSDGs OWGと開発資金のフォローアッププロセスと統合的にする
- 第1回会合を 2013年8月28-30日に実施
 - 共同議長を選出、作業計画などの採択
 - 公的・民間・混合型ファイナンスの改善、資源動員、制度的取決め等
- 第2回12月2-6日、第3回2014年3月3-7日、第4回5月12-16日、第5回2014年8月4-8日
- 特定課題について話し合うクラスター会合を実施
 - クラスター1: 資金ニーズの評価、現在のフローとトレンドのマッピング、国内・国際環境の影響
 - クラスター2: 資源動員と効果的利用
 - クラスター3: 制度的取決め、政策の一貫性、ガバナンス
- 2014年までに国連総会議長に対し、効果的なSD資金戦略の選択肢の提案を含む報告書を提出

技術に関するファシリテーション・メカニズム

- 2012年9月・2013年8月に、国連事務総長レポートが発表
 - 国連機関や他の国際機関などから受け付けた意見の概要、技術促進メカニズムの機能・形式・作業方法に関する提案など
 - 技術に関する目標分野とターゲットの案
 - ＜目標1＞世界の技術パフォーマンスを4倍に向上
 - ＜目標2＞持続可能な技術へのユニバーサルアクセス
 - ＜目標3＞持続可能な開発のため世界的なグリーンイノベーションシステム
- 2013年4-5月にかけて、クリーンで環境適合的な技術の移転・普及に関するワークショップを実施

持続可能な開発委員会(CSD)の終了 ハイレベル政治フォーラムの開始

- 9月20日にNY国連本部にて、第20回目のCSDが開催。終了を決定
- 9月24日に、ハイレベル政治フォーラムの発足会議が開催
 - 2016年より正式に発足
 - 毎年の大臣級会合と4年に一度首脳レベルの会合を実施し今後の持続可能な開発に関する取り組みの支援を担う予定

MDGsとポスト2015開発アジェンダ 特別イベントの成果文書の概要

- MDGsの成果・課題と、ポスト2015開発アジェンダについての意見交換、主に各国の大臣級がディスカッション、成果文書を採択
- 成果文書の概要
 - グローバル・パートナーシップの強化
 - 全てのレベルでの、人権、良い統治、法の支配、透明性、説明責任の促進の重要性を再確認
 - ODAの0.7%目標に向けた進展の必要性を強調 など
 - ポスト2015開発アジェンダ
 - 共通だが差異ある責任を含む全てのリオ原則を再確認
 - 普遍的ですべての国に適用可能な、一つの枠組みと一連の目標を策定
 - 第69回国連総会にて政府間交渉プロセスを開始
 - SDGs OWG、SD資金専門家委員会、技術ファシリテーション・メカニズムのプロセスは、包括的でバランスがとれ、迅速な方法によって、2014年9月までに作業を終了すべきことを奨励
 - 事務総長に対し、2014年末前にすべてのインプットを統合した報告書作成を求める
 - 政府間作業の最終段階として、ポスト2015年開発アジェンダの採択のため、2015年9月に首脳レベルのサミットを開催 など